

# 第1回公民館等職員研修会

平成21年1月28日（水）坂戸市立勝呂公民館において開催されました。

## I 催者あいさつ 小林 永治 会長

（要旨）

昨年5月末日をもって県内70のすべての市町村が埼玉県公民館連合会を脱会した。しかしながら、今後の公民館活動の振興を考えたとき、県全体の連絡調整、情報交換、研修交流など有効に活動する全県の公民館を束ねる新たな組織を立ち上げる必要性を痛感し、昨年、8月26日に57の市町村が参加し、新しく県レベルの公民館組織、埼玉県公民館連絡協議会を立ち上げた。公民館職員研修は、協議会事業の一環として行うものである。

設立総会で、協議会の重要課題として、県内すべての公民館が連携を取り、情報を共有し、公民館職員としての資質の向上に努めていきたい。しいては、公民館利用者の満足度の向上に繋げていきたいと考える。

研修を通じて、今後の公民館運営に少しでも役立てて頂けたらと考えている。公民館は、サービス産業の最たるものと考えている。今までのやり方で、利用者のニーズがマッチしているのかどうか？「公民館も変わっていかねば、いかんとですよ」と思う。引き続き皆様方との情報の共有を頂き、「我が公民館が一番」と言われるよう、また言えるよう、それぞれの公民館との連携をさらに深めていきたいと考えている。

## II 1 発表者・テーマ

### （1）行田市埼玉公民館生涯学習推進員 堀 秀雄 氏

「みんなで参加のふるさとまつり さきたま文化祭 ～地域と連携して～『伝承と創造』」

埼玉公民館は「公民館は地域の茶の間―出会い・ふれあい・学びあい―」を運営の基本としており地域と連携を図るために

- 1 来館者が活動しやすいような環境を整える
- 2 職員と地域住民との人間関係を一層高める
- 3 地域各種団体の事業に参加する
- 4 埼玉の特色、受け継がれてきた地域の人たちの願いを知る

といったことに力を注いで運営している。

また、文化祭について、実行委員会を組織してから開催までの手順、内容、成果と今後の課題などについて発表が行われた。

### （2）北川辺町中央公民館長 山田 瑛一 氏

「スタートした生き生き人生～マナビィでつながる創年の和～」

少子高齢化社会並びに団塊世代の大量退職に伴う問題を控え、今後、高齢者が心豊かに潤いのある人生を築いていけるよう生涯学習のさらなる充実を図るという考えの下、平成19

年4月に中央公民館事務室を「生涯学習サポートセンター」として開設し、職員が生涯学習の相談相手になったり、魅力ある講座の開設をしたり、町民が自主的・主体的に取り組めるようサポートしていくことを目指し特に団塊世代に焦点をあてて取り組みを行っている。

- (3) 寄居町男衾公民館長 吉田 清 氏  
「地域公民館の現状と課題」

男衾公民館の重点目標として

- 1 生涯を通じた多様な学習活動の推進
- 2 地域社会活動の積極的推進
- 3 スポーツ、レクリエーション活動の推進

を掲げ、住民のニーズに合わせた講座・教室の開設や従来の行政指導のあり方を見直し、地域や社会の課題解決、気軽に参加できる生涯スポーツの推進等に努めている。

男衾公民館は、公民館としての建物もなく、コミュニティセンターに併置されている形となっており、住民の3分の1を占める新住民からは、理解を得るのが難しく、常にクレームのもととなっているなど運営に苦勞されていることなどにも触れられていた。

- (4) 深谷市幡羅公民館主査 小川 友恵 氏  
「公民館の役割について」

はじめに幡羅地域や幡羅公民館について紹介があり、事業として、教養・情操的事業体育・レクリエーション事業、家庭教育事業・家庭生活に関する事業、市民意識・社会連帯意識に関する事業、その他の事業として、それぞれの教室、学級、講座、大会等を実施している。公民館の仕事として、人集めの大変さ、多岐にわたる業務や複数事業の同時進行の大変さそして、各種行事での地域の方々の協力が欠かせないなど公民館職員として感じたこと。

公民館の使命は、地域に密着した活動を展開し、住民の要望に応じていくこと、仕事で大切なことは相手(利用者・来館者)に対する気配りや思いやりの心であるとの発表があった。

## 2 質疑

## 3 指導講評

埼玉県教育局生涯学習文化財課

主幹兼主任社会教育主事

小峰 義明 氏

## III 講演

演題 「人生100年時代の公民館」～地域づくりと生涯学習にどう応えるか～

講師 評論家 板垣 英憲 氏

現代は誰もが少なくとも100歳、1世紀を生きる時代である。

公民館は、現代の「鎮守の森」であり、生涯学習を楽しむ場であり、友人づくりの場である。

公民館の現状として、利用者は高齢者が多く、子育て中の女性、子どもの利用が少なく、各年齢層との交流が希薄である。学習内容に地域差があるといったことなどがある。

また、問題点として、男性の高齢者の多くが家庭に引き籠もり、公民館を訪れない。働き盛りや定年間近のサラリーマンの参加が少なく、世代間の交流が希薄といったことなどがある。

解決策として、自治会、老人会、商店街、PTA との連携、地域リーダー、世話役の活躍、講座やセミナーの開催などがある。

最後に高齢者を勇気づけるとして米国の詩人であるサムエル・ウルマンの「青春の詩」の紹介があった。

#### 『青春の詩』

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。逞しき意志、優れた想像力、燃ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時初めて老いがくる。歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や、不安、恐怖、失望、こう言うものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ、精気ある魂をも芥に帰せしめてしまう。年は七〇であろうと、一六であろうと、その胸中に抱き得るものは何か。

曰く、驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰、事に処する剛毅な挑戦、小児の如く求めて止まん探究心、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。

人は自身と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、美と喜悅、勇氣と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り人の若さは失われぬ。これらの靈感が絶え、悲嘆の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ人は全くに老いて神の憐みを乞う他はなくなる。

(松永安左エ門 訳)



主催者あいさつ 小林永治会長



行田市埼玉公民館 堀秀雄氏



北川辺町中央公民館 山田瑛一氏



深谷市幡羅公民館 小川友恵氏



寄居町男衾公民館 吉田清氏



講評 埼玉県生涯学習文化財課 小峰義明氏



講師 評論家 板垣英憲氏



閉会の言葉 狭山市立中央公民館 利根川忠男氏